

ヒト疾患とモデル動物から究明する亜鉛の重要性： 亜鉛がなぜ生命維持に必要なのか？

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 深田, 俊幸 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003971

第 45 回日本女性栄養・代謝学会学術集会

<スポンサードワークショップ>

ヒト疾患とモデル動物から究明する亜鉛の重要性：亜鉛がなぜ生命維持に必要なのか？

徳島文理大学薬学部

深田 俊幸

亜鉛は鉄に次いで多い必須微量元素であり、その欠乏は、初期発生、免疫系や内分泌系等の機能、皮膚、骨・軟骨、骨格筋等の形成に様々な異常をもたらす。亜鉛恒常性の異常が免疫不全、糖尿病、アルツハイマー型認知症等の様々な疾患に関わること、加齢によって生体内亜鉛量が低下することが報告され、亜鉛の健康と病気における関連に注目が集まっている。ヒトの約 1 割の遺伝子が亜鉛結合ドメインをコードすること、トランスポーターによって制御される亜鉛が情報を伝えるシグナル因子(亜鉛シグナル)として機能することが判明し、細胞機能における亜鉛の多様な役割が明らかにされつつある。本講演では、「亜鉛がなぜ生命維持に必要なのか」について、主に免疫系や皮膚器官系に焦点を当てて紹介する。さらに、国際亜鉛生物学会と日本亜鉛栄養治療研究会等の内外の関連学会の活動内容も交えて、亜鉛シグナルを制御する創薬研究や、モデルマウスを用いた関連疾患に対する再生医療研究等について議論する。

略歴

1990 年 広島大学生物生産学部 卒業
1992 年 広島大学大学院生物圏科学研究科修士課程 修了
1998 年 大阪大学大学院医学系研究科博士課程 修了
1998 年 日本学術振興会 特別研究員
1999 年 Cold Spring Harbor Laboratory 博士研究員
2003 年 理化学研究所 免疫アレルギー科学総合研究センター 上級研究員
2014 年 昭和大学歯学部 助教
2015 年 徳島文理大学薬学部 教授 現在に至る。

主な学会活動と役職

国際亜鉛生物学会 (会長)
日本亜鉛栄養治療研究会 (会長)
日本微量元素学会 (理事)